

共謀罪の先取りのようだ

沖縄辺野古「反対派」のリーダー・山城博治さん(64)。抗議活動中の傷害や威力業務妨害などの罪で逮捕・起訴され、勾留は約5カ月に及んだ。朝日新聞の取材に「長期勾留は沖縄に対する脅しだと感じた」「私たちは決してあきらめない」と。4月5日朝刊に掲載された山城さんの発言から。

「詳細は公判で話すが、有刺鉄線を枝に引っかけている針金を切っただけ。そんなことで何日も拘束するとは思えなかった」「あらゆる出来事を事件化し逮捕者が増えた。しかも『共謀した』と。共謀罪の先取りのようで恐ろしくなって、とても話せなかった」「調べの中で『もう辺野古には行かないか』と何度も聞かれ、精神的にきつかった。圧力を感じた。でもゲート前に座り込むのは意思の表明。行かないなんてことは絶対言えなかった」「お金なんて全然ない。確かに県外の人や外国人も来てくれるが、一般の県民が来なければこんなに続かない。1千日という事実こそ、ネットの情報がうそだという証拠だ」「機動隊が100人以上いて、座ればごぼう抜き。悲鳴が上がるし、見ておれんかった。やむを得ずブロックを積んだ。『威力』というが、抗議する人が次々に救急搬送されるような状況をつくっているのは、あなた方じゃないか。権力のせいじゃないか」「そもそも正義とは何でしょう。基地を造ってほしくないと体を張ることは駄目なのか。批判的な空気が本土にひろがっているというのなら、本土と私たちとどっちがまひしているんでしょうね」

共謀罪法案が4月6日に衆議院で審議入りした。犯罪が実際に起きていない段階でも「内心」を取り締まり、思想・信条の自由を脅かす共謀罪法案に、国民の不安が高まる。沖縄辺野古の山城博治さんだけでなく、この近くの岐阜県大垣市や名古屋市瑞穂区でも、共謀罪の先取りのような事件が起きている。

写真は何回かレポートしてきた瑞穂区白竜町の15階建て高層マンションの建設現場である。このゲート近くで、建設に異議を唱える住民が不当に逮捕された。マンション紛争で住民が逮捕されるのは初めてだという。名古屋地裁の裁判を傍聴したが、どう考えても建設業者らに「仕組まれた」事件に思われる。秘密保護法から共謀罪という流れは、草の根の住民運動を抑圧・萎縮させるものだ。断じて許せない。共謀罪とともに、白竜町の住民運動と裁判を注視していきたい。



(2017年4月16日)